



# つばめ農園おひさま便り

35

安溪貴子・安溪遊地

## 草との共存

一〇月上旬に農園のコンバインでの稲刈り、乾燥・もみ擦りをへて、美味しいお米がいただけました。今年はいせヒカリの原種を育てたので来年の「種もみ」のために、稲の種子の取り方を、あらためてお師匠さんに習いました。田での選抜、手刈り・はぜ掛けをして、ほぼ手作業でいねいに収穫します。一方、近隣の慣行農法の田は、初夏の水不足のために除草剤をうまく効かせられなかった田があり、ヒエよりもアメリカセンダングサ、クサネムをはじめとする雑草が目立ち、刈り取りをあきらめた田



リモコンで動く草刈り機を練習中の  
安溪大慧

もありました。無農薬の稲作で毎年のように苦戦する雑草との種類の違いに驚くとともに、除草剤の働きをあらためて見た思いです。

つばめ農園のような棚田地帯では、のり面と呼ぶ斜面の草刈りが大きな負担になります。しかし、斜面に除草剤を使うと土手が崩れてしまいます。生かさず殺さずという抑草剤というものも売られています。二〇一三年七月の大雨では、それを使っていた田のあぜがあちこちで崩落を起こしてしまいました。やはり、草刈りが必要なのですが、傾斜が四〇度近い長さ八メートルもある斜面を鋭い歯が回転する草刈り機を担いで歩くのは危険で、とくに夏場は重労働です。息子の大慧は、モアという重い機械を走らせてあぜの上の方から刈りますが、せいぜい上から一メートル半ぐらいしか届きません。中山間地の斜面の草刈りこそは、高齢化の中で耕作放棄につながる要因だということが実感されます。そこで、阿東つばめ農園では、あらたに自走式の草刈機を導入してみました。二〇〇万円もする充電式のハイテクのものなどいろいろ開発されているようですが、クローラーでの走行はバッテリーで、草刈り部分はガソリンエンジンという製品なら手が届きそうで

す。涼しいところからリモコンですいすいと草刈りが楽しめるようになるか、冬場の雪かきにもどの程度活躍してくれるかを農閑期によく練習してみたいと思っています。

## ゲノム編集食品はいらない

九月一日に、山口市仁保で「子ども達の未来を考えるタネの食育講座」が開催されました。山口市で「エシカル給食の日」の実現のために活動している「やまぐち食育くらぶ」と「ヤッターネ！やまぐち」が、「百年先、われらの未だ見ぬ子孫にも郷土の自然を伝えましょう」をテーマにして開催するというので、かけつけました。安溪貴子に、まだ耳慣れない「ゲノム編集食品とは」、というテーマで話してほしいというリクエストでしたので、勉強してお話をしました。約三〇人が参加した会で話題の全体を、#『長周新聞』が取材してくれました (<http://ankei.jp/yuji/?n=2599>)。以下はそのあらましです。

遺伝子組み換え技術は、ある生物が持つ遺伝子の特徴を別の生物に組み込むことです。例えば、害虫抵抗性のある遺伝子組み換え作物とは、BT農薬を生産する微生物

の遺伝子を、トウモロコシやジャガイモに組み込ませる。すると、植物全体が、虫がそれを食べれば死ぬ毒をもつようになります。その作物を人間が食べるのです。この技術は、しかし、EUなどでは消費者から拒否されていますので、あらたにゲノム編集という技術が導入されました。これまのようにやみくもに組み込んでいた違う生物の遺伝子ではなく、DNAの狙った場所の二本の鎖を切ってその機能を失わせるだけで外から遺伝子を持ち込まないので、安全だと宣伝されています。でも、切ったところに新たな遺伝子を入れることもされており、遺伝子を変えることは組み換えと本質的には変わりません。生物は、体の大きさのバランスをとる遺伝子が備わっていますが、その遺伝子を壊して、肉だけが肥大したマダイや食べすぎで速く太るトラフグが実用化されています。ギャバという物質を多く含むトマトとあわせた三つが日本で販売されているゲノム編集食品なのです。

米国では、トランス脂肪酸を含まない安い植物油をということで、ゲノム編集大豆が作られました。これを発売した米国の会社は、株価が一五九分の一にも暴落してとうとう身売りするはめになってしま

ました（#印鑰智哉さんのブログ <https://project.inyaku.net/archives/8302>）。

もともと生き物に備わったバランスをとる機能を担う遺伝子を壊すことの、それを食べる人間や、その他の生き物たちや環境への影響はわかっていません。それなのに、日本政府は、環境影響評価をおこなう義務、安全性審査を受ける義務、表示の義務を企業に対して免除したうえで、世界で三種類しか発売されていないゲノム編集食品（ギャバトマト・トラフグ・マダイ）を認可してしまつたのです。現在、企業はトラフグとマダイを、宮津市のふるさと納税の返礼品で、またギャバトマトを、二〇二二年に全国の福祉施設に、二〇二三年には学校に苗を無料配布する計画です。子どもたちを実験台にすることを止めようと、脱ゲノム編集食品の全国組織の#OKシードと連携して「やまぐちの種子を守る会」としての働きかけを始めたところで。 （つづく）  
（あんけいたかこ・あんけいゆうじ）

QRコードにスマホをかざすと、各サイトが見られます。文中の#マークはパソコン検索用です。

